

令和3年度

三島小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○主体的に学習に取り組み、自分の思いや願いを豊かに表現できる児童の育成

学力向上検討委員会構成

学方向上推進員	委員	校長・総括	藤田 俊明
		教頭・総括補佐	辻 宏明
北田 奈緒子		教務主任	角野 文則
		低学年推進員	大塚 真理子
		中学年推進員	北田 奈緒子
		高学年推進員	松田 享子
		特別支援教育コーディネーター	山本 美保

校長

藤田 俊明



◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字や計算のドリル学習に真面目に取り組む、ある程度定着している。 ●学習した漢字を、生活の中で適切に使えない児童や、基本的な計算が定着していない児童が見られる。 ●語彙が豊富でない。	・各学年で学習する漢字や計算等、基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。 ・日記や作文の中で既習漢字を使う等、身につけた知識・技能を学習や生活の中で活用することができる。	・昼のドリルタイムで継続して漢字・計算練習を行い、定期的に小テストを実施する。 ・日記やノート、作文等で、既習の漢字等が使える部分を添削して知らせる。 ・教科書の音読や暗唱、視写を繰り返すことで、正しい表現を身につけさせる。高学年では、小学生新聞の音読や視写、感想文等を家庭学習に取り入れる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の思いや考えを素直に表現しようとしている。 ●文章を読み取って問いに答えたり、考えを表現したりすることが難しい。 ●考えたことが相手に伝わるよう筋道を立てて表現することに課題がある。	・学習課題の解決に向けて、見通しをもって考えることができる。 ・話す活動や書く活動の時に、根拠や理由を明らかにしながら自分の考えを表現できる。	・自分の考えを書いたり話したりする場面を増やすことで、自分なりの考えをもつことができるようにする。 ・ホワイトボードや付箋を活用することで、自分の考えを整理できるようにする。 ・自分の考えを表現するとき、考えた理由も付け加えさせることで、そのことを習慣化させる。 ・「3つの発問」を活用することで、学習を広げたり深めたりできるようにする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学校での学習や家庭学習に真面目に取り組むことができる児童が多い。 ●指示を待っていることが多く、課題を自分で見つけよう、生活に生かしていこうとする態度が見られにくい。 ●家庭での読書量が少ない。	・問題意識をもって学習に取り組むことができる。 ・学びの内容や方法を自己選択・自己決定できる。 ・自分の学びを振り返ることができる。 ・学んだことを生活に生かそうとする。 ・家庭でも計画的に学習や読書に取り組むことができる。	・学習の過程に、「めあて」の確認や「ふりかえり」の場面を必ず位置付けることで、問題意識や見通しをもって学習に取り組んだり、各自の学びを生活につなげたりできるようにする。 ・学びの内容や方法をさまざまに提示できるようにする。 ・「家庭学習の友」を活用することで、家庭との連携を図ることができるようにする。 ・毎週末には本を貸し出すようにする。			

令和3年度 学力向上ロードマップ

